

衛環研ニュース

News of the Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment

発刊によせて



所長 金城喜榮

沖縄県衛生環境研究所(衛環研)の業務遂行に日頃から特段の御理解と御協力、御支援を頂いております関係各位に深謝致します。当研究所では公衆衛生情報について簡潔に解り易く一般に提供するため、新たに『衛環研ニュース』を年4回程度

発刊することにしました。

さて、地方衛生環境研究所は都道府県又は指定都市における科学的かつ技術的中核として、関係行政部局、保健所等と密接な連携の下に、調査研究、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報の収集・解析・提供を行うことを目的に設置されていることは周知のことと思います。

当研究所も創設当初から公衆衛生に関する県内唯一の専門機関として、旺盛な各般の行政需要に対応してまいりました。特に本県においては、終戦直後の劣悪な衛生状況から、行政当局を初め、保健所、衛生研究所等関係機関が一丸となって絶えまぬ努力の結果、飛躍的に改善されました。改めて先達の御尽力と御労苦に心から敬意と感謝を表します。

おかげで、当研究所には創立以来50年余に亘る公衆衛生上の情報と技術の集積があり、これらは、開発途上国からの研修員への技術移転にも大いに活用されております。

しかしながら、従来の公衆衛生上の問題は多々改善されたとは言え、現在は新たな課題が惹起し

ております。大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済社会の下で、快適な生活を楽しむ反面、ダイオキシン、環境ホルモン等を含む身近な都市型公害から地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少等の地球環境問題まで非常に幅広く、また次世代までの影響をも懸念されるなど、一国だけの問題にとどまらず国際的な取り組みが強く要請されております。さらに、国内においても高齢社会と医療・介護問題、少子社会対策、新興・再興感染症の問題、依然として多発する食中毒等々、公衆衛生上の問題が山積しております。

一方、地方衛生環境研究所はその地域特有の問題解決も大変重要であり、ハブ咬症、赤土汚染、ハブクラゲ刺傷等の調査研究にも通常の行政検査と併せて鋭意努力している所であります。



衛生環境研究所 本所 正面玄関

当研究所の調査研究、試験検査の成果その他公衆衛生情報については、衛生研究所年報、各種調査報告書、あるいはインターネットホームページに掲載して広く提供してまいりましたが、必ずしも十分に活用されている状況にありませんので、この度『衛環研ニュース』を発刊する運びとなりました。どうか御高覧頂き、御意見等も賜れば幸いです。

目次

CONTENTS

発刊によせて	1
特集 沖縄県における腸管出血性大腸菌の発生状況とその特徴	2
話題 気を付けよう！海の危険生物	3
赤土条例の効果	4
調査・研究 沖縄近海産フグ及びハリセンボン類の毒性調査	5

沖縄県のがん発生状況について	6
沖縄島に帰化したヘビ	7
学術交流 東アジア酸性雨モニタリングネットワークへの参加について	7
国際交流 JICA 衛生・環境分析技術者コースについて	8
お知らせ 衛生環境研究所公開研究発表会	8